

この縁日の中で一番の人気は「かごかき」である。子供に清朝時代の衣装を着せて、かごに乗せて掛け声よろしく担いで歩くものだが、順番まちで行列になっていた。



(写真 1-4-1) 中国風のかご。

日本の大名かごに比べて色彩が豊かで、装飾も多い。椅子に腰掛けて乗るので乗り心地もよさそうだし、目線も高い。

この華やかな飾りからみると、結婚式のお披露目に花嫁、花婿が乗ったものと思われる。

(写真 1-4-2 下) かごかきの衣装と担ぎ方。この二人は後ろ側。

かごは前後に二人宛、四人で担がれている。衣装はお目出度いかごらしく赤で統一されている。担ぎ方は肩に担ぐ棒と腕で支える棒の二つから成り立っている。この方が腰掛けて乗る中国式の輿には安定するので良いのだろう。

掛け声と鳴り物入りで大勢の観客の前を通過し、それを追いかけて親が写真を撮っている。いかにも春節のお祝いらしく華やかな催しで、見ている我々も楽しい気分を味わえるのだ。



(写真 1-4-3~5) 衣装を着た子供たち。

順番を待っている間に木陰で衣装に着替えるが、種類は多様で見ている面白い。子供たちは緊張気味だが母親は楽しそうだ。何度も着せ替えさせられている子もいる。



(写真 1-4-6 左) かごの正面。腰掛けて乗る。



(写真 1-4-7 上) 天蓋だけの輿もある。乗っていたのが男の子

だった。花婿用かもしれない。服装も違う。

(写真 1-4-8 左) 中には衣装を着てポーズをとって写真を撮ってもらっている少女もいた。



(写真 1-4-9 上) 笙とラッパの賑やかな楽隊。

村や町の中をかごに乗せて、賑やかに、華やかに花嫁、花婿のお披露目をして歩き、それを大勢の集まった人たちが祝う。もう都会では見られないかもしれないが、この野趣あふれる風習がまだ残っている地方があるのだろうか？ そんなことを思いながら見ていた。

日本でも馬に花嫁を乗せて越しいれする地方もあるし、舟で嫁入りする地方もある。同じような文化を見る思いがした。